

【学生による ESD 学習支援】

奈良市立左京小学校 野外活動 支援報告書

教育学専修 1 回生 岩城 雄大

社会科教育専修 1 回生 辻 悠佑

1. 実施日 令和元年 6 月 12 日 (水)
2. 場所 奈良市青少年野外活動センター
3. 参加者 谷垣徹(大学院生)、石崎桃花(奈良ユネスコ協会青年部)
櫓乃里花・西條秀哉・山本健太・岩城雄大・辻悠佑(学部生)
奈良市立左京小学校第 5 学年児童、引率教員 複数名

4. 活動支援内容

令和元年 6 月 12 日、奈良市青少年野外活動センターにて奈良市立左京小学校第 5 学年の野外活動が行われ、その活動支援にあたった。支援内容は、野外炊飯の補助とキャンプファイヤーの運営である。

今回の活動支援で私たちが学んだこととして 2 つ挙げる。1 つ目は活動支援の程度について、2 つ目は活動支援の柔軟性についてである。

1 つ目は、活動支援の程度についてである。私は見守りを任された班の児童たちが行うべき活動の一部を専らやってしまった。これは児童たちの学びの場を奪ってしまっている。野外活動の主役は児童たちであって私ではない。また、私が活動をやってしまっているときには、ほかの児童たちが何を行っているのかを見ることができていなかった。班の児童たちがそれぞれ何をしているのか、全体を把握した上での支援が必要であると感じた。この失敗から、私は活動支援の程度を考えるようになった。一つの活動に偏るのではなく、全体の活動を踏まえたうえでの個々の対応を念頭に置いてこれからの支援に取り組もうと考えている。



野外炊飯の様子

2 つ目は、活動支援の柔軟性についてである。今回の野外活動支援のような活動は初めてであったため、特にキャンプファイヤーの時に、どのように動けばよいかを質問することが多かった。キャンプファイヤーはその場で対応を迫られることが多いが、スタントの進行をしていた櫓は想定外のことが起きてもしっかりと対応できていた。それを見て、私もその場面がより盛り上がるように自分で考えて動く必要があると感じた。一方で、私は指示されたとおりにしか動くことができず、想定外のことが起きたときにどう対処すればよいかわからなくなり、共に行動していた仲間たちにフォローしてもらった場面が多々あった。これは、今回が初めての野外活動支援であったこと、物事に対して慎重になるあまりとっさに行動をとることができなくなってしまう性格が影響したと考える。今後は、私を含め一人ひとりが臨機応変に対応することができるように、まずは行動してみるようにしなければいけないと感じた。



キャンプファイヤーの様子

今回の活動では、これまで経験したことのないことを経験したり、頭では考えていても実際には行動できなかったことが何度もあったりしたため、先生方や先輩に助けてもらうことも多かった。そのことに感謝をし、ここに書ききれないほどの反省点を踏まえて、将来教員になったときに活かしていきたいように、これからも支援活動に積極的に参加していきたいと考える。